建設長崎

9 September No.627

2017年9月15日

1部20円 組合員の購読料は組合費に含みます

印刷●㈱昭和堂 TEL 095-821-1234

発行●長崎県建設産業労働組合 〒852-8021 長崎市城山町17番58号 TEL 095-862-7121 FAX 095-862-5281 http//www.kensetunagasaki.org/ 発行責任者●田上一郎 編集人●若杉孝雄

建設長崎大運動会開催のお知らせ

と　き　平成29年10月22日(日)
午前10時開会

ところ　琴海中部運動公園
（長崎市長浦町）※雨天の場合は中止

仕事確保・処遇改善に向けて要請

諫早市要請

若い世代の入職・仕事確保のためリフォーム助成制度の継続と拡充を

八月二十三日(水)十一時十分から、諫早市役所市長応接室にて、諫早市長に対し要請を行いました。

市側からは宮本市長他五名、組合・協会からは舩津委員長、北村会長他十三名が出席。

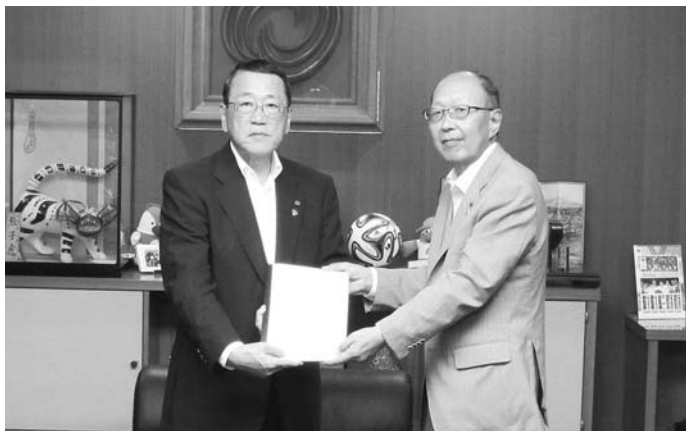
始めに北村会長から宮本市長へ要請書を手渡し、要請書の趣旨を説明。宮本市長はあいさつで「これまでもできるだけ要望に沿うような政策を展開している。県では住宅リフォーム助成制度が平成二十七年度で廃止となり、今は三世代住宅を対象に助成が行われているが、諫早市では独自に住宅リフォームを継続している。また土地利用に関しての規制が、市・県それぞれにあり、その情報を一元的にみられる制度を八月二十八日から開始する。この制度を大いに利用していただき、数多く戸建て住宅を建てていただきたい。」と述べられました。

要請内容に対しては担当課長から回答があり、工事発注に関する要望については「業者選定は地元業者の育成、支援、市内の経済活性化のために、地元業者を優先的に選定・指名し、分離分割発注についてもできる限り努めている。また年間を通しての平準化発注にも努めている。」

設計労務単価の引き上げについては「県の基本単価により最新の労務単価などで適正価格での発注を行っている。」

住宅リフォーム事業に対しては、「平成二十九年度の申請件数は現在四十件となっており、順調に推移している。」と回答。

舩津委員長は「組合員の平均年齢が五十歳を超えている。若年入職者もなかなか入らず、ますます働き手がいなくなる。民間活力のためにもリフォーム制度の継続をお願いしたい」と重ねて要望し、終了しました。



▲諫早市要請　宮本市長（左）に要請書を手渡す北村会長

▲佐世保市要請　佐世保支部協会による要請

佐世保市要請

受注機会の増と若年技能者への施策を

八月三十一日(木)、午前十一時から佐世保市役所において山口副市長他七名の部課長に対し、組合・協会からは田上専務理事他八名と山下市議他三名の市議団で要請を行いました。

双方のあいさつ後、要望書を渡し、まず工事発注に関する要望は、「機会均等並びに地元発注を最優先に行っているが四月から六月の端境期については今後も検討する」との回答でした。次に住宅リフォーム制度については「空き家対策での補助や三世代同居・近居促進事業を行っているのでこれらを活用して頂きたい」との回答がありました。

意見交換では、建築事業が減少し厳しい状況の中、建築に関する工事の受注機会を増やしてほしいとの要望に対し、市としては耐震化工事も一定のめどが立ち、建設から改修・維持へとシフトしたため、塗装・防水工事等の専門工事が増えてきているのは事実だが、建築の指名業者に対し専門工事の受注機会を与えるとなると専門工事業者の仕事が減るので難しい、また、山口副市長からは予算総額も生活関連予算額も増減はないとのことでした。

佐世保市はクルーズ船の停泊のため浦頭に新しく港を建設予定だが、市内で食事やショッピングをする場所が少ないと思われるがどのように考えられているのかとの質問に対して、「つくも苑の跡地を利用するなど、民間の力を活用したい。松浦公園に観光バスの駐車場を設置しアーケード街の活性化も図りたい」との話がありました。

最後に田上専務理事より住宅リフォームは若年技能者にとって、技術の継承につながる重要な仕事と捉え、各種助成制度の創設をお願いしますと再度要望し、約一時間の要請行動を終了しました。

県央振興局要請

小規模工事の積算単価 空家対策について重ねて要望

八月二十三日(水)午前十時から、県央振興局長に要請行動を行いました。

▶県央振興局要請　嶋田局長（右）に要請書を渡す北村会長

県央振興局から嶋田局長他七名、組合・協会から舩津委員長、北村会長他二十名が出席。

始めに局長室において、北村会長から嶋田局長へ要請書を手渡したのち、場所を会議室に移し、建設部長から要請内容について回答を頂きました。

工事発注については、「分離発注はそれぞれの専門性を配慮し発注しているが、分割となるとコスト面がありなかなか難しい。また、発注は、なるべく上半期に発注していきたい。」

労務単価については「出先機関では回答しにくい。実態を把握し皆さんの声を本庁に上げていきたいと思う。」

住宅リフォーム事業に対しては、「本年度、事業内容を拡充し実施している。県央地域では大村市の取り組みが弱いと聞いていたので大村市に取り組むようお願いしたところである。」と回答。

その後、小規模工事における積算単価や空き家対策について要望を行い、最後に舩津委員長がリフォーム助成制度について重ねて要望し終了しました。

年間拡大目標400名に設定
組織純増で組織強化・前期拡大成功へ

前期拡大行動期間（9月～11月）

仕事とくらしを守るために組織を大きくしましょう！

「数は力」仲間の数を増やして影響力を高め要求実現につなげましょう。

多くの仲間の皆さんの協力（紹介）が必要です！

組合員さん一人ひとりが持つ日常のつながりを拡大に活かしてください。

組合が大きくなれば、魅力・メリットも充実・発展へ！

長建国保や共済など組合の事業は、数が増えれば充実・発展につながります。

私たちを取り巻く情勢は大変厳しいものがあります。だからこそ、建設技能者・職人が組合に結集し、切実な要求の実現や制度改善に向かって進んでいくことが大切です。

■前期拡大目標■

支部名	目標(人)
中央	12
大浦	10
市南	11
東長崎	13
浦上西	16
浦上東	10
西彼	16
諫早	18
大村	12
島原	15
佐世保中央	15
佐世保東	18
佐世保北	12
北松	11
平戸	9
合計	200

各支部大会開催

延べ八一六名が参加！

建設長崎第七十二回定期大会を受け、八月二十一日開催の佐世保北支部大会を皮切りに、各支部大会が開催されました。

平成二十八年度の経過・決算報告、二十九年度の方針・予算の提案、新役員の決定が行われ、新体制がスタートしました。

浦上西支部

開催日　九月一日(金)
参加者　六十五名
支部長　村岡　広明
副支部長　佐藤　昭彦
〃　平出　壽夫
〃　木下　広次
〃　山崎　司
〃　山形　信
〃　下川　孝貴
書記長　松園　俊輔

西彼支部

開催日　九月十一日(月)
参加者　六十七名
支部長　岩崎喜三郎
副支部長　井手　保
〃　山中　茂
〃　中尾　豊
〃　尾崎　光生
書記長　森　一公

島原支部

開催日　八月三十日(水)
参加者　三十三名
支部長　山田　哲夫
副支部長　城　祐輔
〃　本田　岩勝
〃　松田　年市
〃　川田　照重
担当　牛島　貴裕

北松支部

開催日　八月二十九日(火)
参加者　五十五名
支部長　須藤　輝久
副支部長　近藤　力也
〃　坂中　善男
〃　萩原　正清
〃　田中　祐二
担当　西田　光孝

中央支部

開催日　八月二十三日(水)
参加者　五十二名
支部長　本多　常秋
副支部長　馬渡　鉄洋
〃　山口　龍志
〃　樋口　正人
〃　石橋　廣喜
書記長　井関　一幸

大浦支部

開催日　九月十二日(火)
参加者　三十七名
支部長　北村　五男
副支部長　平山　正則
〃　鳥田　時治
〃　古里　一紀
〃　宮副　辰則
書記長　井関　一幸

浦上東支部

開催日　八月三十一日(木)
参加者　四十五名
支部長　田崎　順一
副支部長　野口　耕平
〃　森　政一
〃　田川　和博
〃　松田　隆人
書記長　江頭　孝一

大村支部

開催日　九月十三日(水)
参加者　六十五名
支部長　中尾　政男
副支部長　一瀬　純男
〃　川田　洋一
〃　緒方　末広
〃　津上　章司
〃　金水　誠
〃　松野　隆志
担当　山本祐一郎

佐世保東支部

開催日　八月二十五日(金)
参加者　六十八名
支部長　茅原喜志男
副支部長　長島　則行
〃　小谷　守
〃　迎　稔
〃　大庭　真八
〃　坂口　龍夫
担当　香月　徳仁

市南支部

開催日　八月二十八日(月)
参加者　五十四名
支部長　小宮　清治
副支部長　山下　洋二
〃　小泉　雄義
〃　中島　善明
〃　山﨑　昌晴
〃　一ノ瀬　崇
書記長　古井　宏樹

東長崎支部

開催日　九月四日(月)
参加者　四十八名
支部長　里　澄宏
副支部長　山村　篤司
〃　岩永　和範
〃　尾上　正範
〃　本村　美喜男
書記長　若杉　孝雄

諫早支部

開催日　九月五日(火)
参加者　五十四名
支部長　木下　忠明
副支部長　中村　太司
〃　後田　博幸
〃　石丸　久
〃　林　崇
〃　山崎　貞博
書記長　大賀　修司

佐世保中央支部

開催日　八月二十二日(火)
参加者　六十七名
支部長　塚本　芳美
副支部長　宮野　喜吉
〃　川元　俊彦
〃　末吉　重一
〃　本田　英樹
〃　大島　吉博
書記長　渕上　武司

佐世保北支部

開催日　八月二十一日(月)
参加者　五十名
支部長　小林　健治
副支部長　福田　栄治
〃　柚元　美則
〃　松尾　正明
〃　松山　新二
書記長　小野　猛範

平戸支部

開催日　八月二十四日(木)
参加者　五十六名
支部長　岡田　眞
副支部長　原田　仁志
〃　大石　義孝
〃　大浦　広己
担当　西田　光孝

原爆殉難者慰霊祭

核兵器禁止条約の採決に核保有国も日本も参加し核兵器のない世界を訴える

八月八日㈫午前十一時から、原爆公園内にある「建設労働者職人・原爆殉難者慰霊・不戦平和の塔」前で、原爆殉難者慰霊祭が執り行われました。

被爆七十二周年を迎え被爆者の方も年々高齢化している中、あの惨劇を二度と繰り返すことのないように毎年開催していますが、中々進まない核廃絶を訴え続ける為に広島と長崎では毎年慰霊祭を開催しています。

今回は、全建総連の主催で全国から三十二県連組合一〇〇名の参加。献納された折り鶴も三十八県連組合一五万三三四四羽が寄せられました。

開会の挨拶の後、原爆で被害に遭われた御霊に対して黙とうを捧げ、全建総連の三浦執行委員長、広島建労の岩田執行委員長、建設長崎の舩津執行委員長が慰霊碑に代表して献花を行いました。

続いて各県連から各地の名水と祈りを込めた折り鶴が献納されました。

慰霊の言葉では全建総連三浦執行委員長が平和憲法施行七十年となる今年、二度と戦争をしないと誓った日本国憲法のもとで暮らしが豊かになった事を忘れることなく平和を維持している中、安倍首相の様々な憲法改悪で平和憲法の危険が現実に迫っている事を訴えました。

また、核兵器禁止条約が賛成多数で採択され核のない世界が人類共通の願いとなり、二度と核兵器を使う事がないよう決意の言葉を述べられました。

続いて建設長崎を代表し舩津執行委員長は七十二年前の原爆投下での惨状を訴えて、核兵器なき世界を追及し核兵器禁止条約の採択で唯一の被爆国である日本が「核兵器禁止条約」に参加し核保有国の架け橋となって核兵器を世界からなくすことを訴えました。

更には、福島原発事故を教訓に「人類と核は共存できない」立場で被爆の実像を風化させることなく地球上から核が無くなる事を訴え続ける事を誓いました。

その後、参加者全員での白菊の献花を行い原爆殉難者の御霊に祈りをささげて原爆殉難者慰霊祭の一切を終了しました。

▲舩津委員長は核兵器を世界からなくすことを訴えた

▲全建総連　三浦委員長

▲建設長崎　舩津委員長

広島原爆慰霊祭

～全国の仲間と祈りを捧げる～

八月五日、広島平和記念公園内の原爆犠牲建設労働者・職人の碑の前で「慰霊祭」が開催されました。九十名余りの全国の仲間も駆け付け多くの折鶴や名水が「慰霊祭」に献納、献水されました。

建設長崎からも舩津委員長、主婦会から諫早支部の石丸さん、酒井さんの二名が参列し原爆犠牲者の御霊を慰め、平和への祈りを捧げました。

▲左より　舩津委員長、藤木担当、酒井さん、石丸さん

全建総連　第31回

原水爆禁止建設労働者・職人のつどい

『記念講演・川副忠子さん』―組合の運動に期待―

八月八日、午後一時三〇分からホテルセントヒル長崎において全国二十七県連・組合から九十六名が参加して「全建総連第三十一回原水爆禁止建設労働者・職人のつどい」が開催されました。会場には平和首長会議の原爆ポスターや長崎の原爆被害のパネルを展示。三浦中央執行委員長は「平和でなければ仕事も暮らしも成り立たない。戦争への道を拒否し続けていく」とあいさつ。

つどいでは、一歳半の時に被爆したという川副忠子さんが取り組んできた運動や、ニューヨーク国連本部での核兵器禁止条約が採択されたことについて「世界には核弾頭が一万四千九百発あるといいます。わが国が核兵器禁止条約を批准するよう、核廃絶をめざしてがんばっていきます。労働組合の皆さんの運動も大いに盛り上げて下さい」とスライドを交えながら講演をしていただきました。

最後は建設長崎の村上昌也青年部長が、核兵器の廃絶を広く世界に訴え、日本を再び戦争をする国にしてはいけないと「長崎からの訴え」を力強く読み上げ全員の拍手で採択しました。

▲元小学校教諭　川副忠子さん

世界の核兵器と東アジア非核化

世界に存在する核兵器は約一万五千発。ピーク時の冷戦期に比べると約四分の一に削減されましたが、今なお人類を数十回も滅亡させる破壊力。大半を所有する米国とロシアは共に核の近代化を進めており、使用を辞さない姿勢も表明しています。

北朝鮮も十～二十発を保有しているとみられています。

日本で今、「核の脅威」といえば北朝鮮問題。「米国の核に対する防衛」を口実にした北朝鮮の核開発を止めるためにも、核兵器禁止条約をテコに、東アジア全体の非核化を進めていくことが求められています。

足場の組立て作業主任者講習会及び特別教育のご案内

■足場作業主任者技能講習■

【日　　時】平成29年10月12日㈭～13日㈮　2日間
午前8時30分受付　午前9時～午後5時

【場　　所】建設技能会館（建設長崎本部）
長崎市城山町17－58

【受講資格】足場の組立て、解体又は変更に関する作業に3年以上従事した経験を有する者

【講 習 料】8,000円（テキスト代込み）
※建設長崎組合員には2,000円の助成があります。

【申 込 先】支部にて随時受付。

■足場作業従事者特別教育■

【日　　時】平成29年10月12日㈭　1日間
午前8時30分受付　午前9時～午後5時

【場　　所】上記に同じ　【受講資格】特になし

【講 習 料】4,000円　【申 込 先】上記に同じ

住宅デー特集

大浦支部 ●戸町分会● ―戸町夏祭り協賛―

～今年も地域の方々に組合をアピール～

八月十九日(土)の正午から、戸町夏祭りの協賛イベントとして、戸町中学校のグランドで住宅デーを開催しました。

▲ご協力頂いた大浦支部の皆さん

照りつける太陽の下、テントを建て、「無料包丁研ぎ」の看板と磨ぎ石などの準備をひと通り終え、参加者でお昼のお弁当を囲んだ後、北村支部長から、「土曜日のお忙しい中に参加頂いたこと、暑い中、水分を十分に取りながら熱中症に気を付けて作業をして頂きたい」とのあいさつ。また、本部から舩津委員長にも駆けつけて頂き激励のあいさつを頂きました。

準備段階からお客さんがお目見えしていて、その後もお客さんの出足はまずまずで、あら研ぎと仕上げ研ぎを、分担作業で丁寧に効率よく、一一一本の包丁を見事に研ぎあげていました。時折そよぐ程度の風もありましたが、猛暑の中、「奉仕活動」という形で地域の方々に建設長崎をアピールする事が出来ました。

《参加者》（敬称略）
北村　五男　平山　正則
田上　義高　佐々木政敏
小野　義龍　竹市　幸信
安達　三次　松尾　哲夫
鳥田　時治　春尾　末吉
松本　重徳　橋本　進嗣
鳥田　愛子　山下キミエ
北村すみ子　松本のぶよ
深堀　治子
舩津委員長　石田書記長

中央支部 ●西山分会●

～地域の方より感謝～

残暑厳しい九月三日(日)午前九時三〇分から、組合員十四名、主婦会二名の参加のもと、西山一丁目公民館で二年ぶりの住宅デーを開催しました。毎年地元自治会の役員さんの協力を頂きながら開催をしています。昨年は、台風接近の天気予報を受けて、安全を考慮し中止となりました。そのためか、皆さん待ち焦がれていたみたいで、受付時間前から、包丁を持って来場される方もありました。

持ち込まれた包丁とまな板は丁寧に仕上げられ、待っている間は、皆さん世間話で花が咲きます。中には、包丁を研ぐ組合員さんの手元をじっくりと観察されている方もいらっしゃいました。出来上がった包丁やまな板を受け取り「助かります。ありがとうございます」と嬉しそうに持って帰られ、住宅デーが地域の方に喜ばれていることも実感できました。

《参加者》（敬称略）
本多　常秋
馬渡　鉄洋
樋口　正人
石橋　廣喜
山﨑　増雄
内野　幸雄
田森　勝
太田　俊一
山下　廣造
馬場　秀行
伊東　秀政
大石　直
坂口　忠義
西村　忠光
馬場ヒロ子
樋口須磨子
舩津委員長
石田書記長

西彼支部 ●琴海分会●

～三会場で三一一本研ぎあげる～

西彼支部・琴海分会では、去る八月二十日(日)にJA長崎せいひの各三ヵ所（村松営業所・琴海支店・形上出張所跡地）で住宅デーを開催しました。

昨年は四一七本の包丁が寄せられ、てんてこ舞の状況だったことから、琴海町内放送での開催告知のアナウンスを一回だけにしたところ、組合員参加人数三十三名に対し、包丁二九三本、カマ・ナタ・ハサミ二八本が寄せられ、丁度良い塩梅でした。

但し、なかなか時間内に受け取りに来られない方もいらっしゃり、受付時には、可能な限り連絡のつく、携帯電話番号を教えて貰う取り組みが必要だと感じました。

日差しも、秋の訪れを感じるような天気で、例年よりは、やりやすく、お蔭様で無事に終了することが出来ました。

ご協力頂きました皆さん、本当にお疲れ様でした。

（森）

▲村松会場

▲長浦会場

▲形上会場

《参加者》（敬称略）
井手　保　岩崎喜三郎　山中　茂　藤田　清　道平　政文
相川　哲男　岸川久美男　森　進　井手　吉一　浦　勝彦
岑山　義徳　神近　剛　石橋　洸　松山　義廣　今里　正吉
岩下　孟　角﨑　豊　林　一弘　石橋　忍　小山　哲男
太田　正利　小野田国夫　相川　守　山﨑　康博　島本　治
廣瀬　茂樹　相川　雅彦　松尾　孝　浦添　朝夫　徳永　八郎
前尾　辰美　西山　恒顕　石橋　宜典　相川　一吉　辻　泰志
舩津委員長　田上副委員長

西彼支部 ●時津連合分会●

～今年も多くの方に来場頂きました～

▲ご協力頂いた時津連合分会の皆さん

西彼支部・時津連合分会では、去る九月三日(日)に時津町ウォーターフロント公園で住宅デーを開催しました。

無料包丁研ぎを基本に取り組みましたが、包丁一三一本、ナタ六本、カマ三一本、ハサミ一三本で、約三割が包丁以外のもので占めていました。

また、約束の時間になっても取りに来られないお客さんも多く、課題の多い住宅デーとなりました。

住宅デー終了後は、恒例の慰労会を満寿美時津店で行いました。生憎、私は参加出来ませんでしたが、カラオケなど、盛り上がったことでしょう。

ご協力頂きました、組合員・主婦会の皆さん、本当にお疲れ様でした。

（森）

《参加者》（敬称略）
浦馬場幾男　中尾　豊　井手　保　砂川健二郎
川久保博幸　川林　満　高木栄八郎　松本　文男
堀口　留喜　濱本　勝之　松野　春男　林田　浩治
中村　正博　田口　繁美　植田　秀之　濱本　久枝
溝上　啓子　堀田　正昭　川下喜美子　脇川　雅隆
古藤　明義　岩崎喜三郎　山口　俊一　山中　茂
舩津委員長　石田書記長

【お詫びと訂正】

先月号（平成二十九年八月号）の四面に、「定期大会に参加して」の記事を投稿頂いた佐世保中央支部の大島さんの名前を間違っておりました。正しくは左記記載です。お詫びして訂正します。

（正）大島　吉博　氏